



- ミズキンバイが源流に生息しています
- アユを白子川上流に呼びたい!
- 新会員紹介
- 大泉南小4年生「白子川博士になろう」
- 第11回定期総会 報告
- 定例活動 報告

白子川な人

(その7)

あの橋のたもとで

山内健一さん

(東大泉7丁目在住)

取材 菅沢 博



川は呼んでいる、とつくづく思う。

8月のある日、私は、西武池袋線鉄橋の手前、緑橋のたもとに居た。このあたりの「川らしい川」が好きで何度も足をはこんでいる。この日も、水草をゆらゆらと揺らす流れの中で、魚がゆうゆうと泳ぐ様子を長い時間ながめていた。

気づくとすぐ隣で、「…マダラ模様の鯉が最近いなくなっちゃったんですよ。源流のほうに行っちゃったんですかねえ…」と、つぶやくように話す方がいた。それから次々と白子川の話に花が咲いた。

——近くにお住まいですか？

「近いです、ホラ、あそこ。2か月前に引っ越してきたんですけど、近いからいつも白子川を見る。川を見てるとホッとしますよね」

——川の様子もよくご存じでしょうね？

「あそこの川底の一部分の砂が白くなってるでしょ。引っ越して来たころは白くなかったんだけど、なんでだか、そこを鯉がつつつくようになったら白くなってね。川底から出る湧き水を飲んでるのかなあ…」
——以前のお住まいでも川が近かったんですか？

「そう、白子川中流の万年橋の近くで40年も住んでた。白子川の様子もずいぶん変わったよ。昔は川に降りることが出来たのにねえ、今はコンクリートになっちゃって。でも、この辺りはいい川だよ」

——故郷も自然が豊かでしたか？

「渥美半島の西側に故郷があるんです。山や川や海が近くて豊かな土地で、川が海にそそぐあたりで採れるシジミは丸く大きくて美味しかったなあ…」

定例活動 報告

4月、5月、6月、7月の定例活動から



黄色の一日花
ミズキンバイ
絶滅危惧Ⅱ類

源流域・水の測定データ

測 定 地 点	日 天気 気温 項目	4/24	5/22	6/26	7/24
		25.0	27.0	23.5	29.5
源 流 部	水温℃	30.2	25.8	18.8	21.9
	水深cm	3	6	16	13
	PH	6.1	5.9	-	6.0
井 頭 橋	水温℃	18.5	22.4	18.9	22.2
	水深cm	16	14	22	21
	PH	6.3	6.7	-	5.8

このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。6月のPH-は、器機の電池切で測定できなかったため。

□白子川源流域の様子

★春から夏にかけて、水量は？

3月の地震後、水道が閉ざされたようで、湧水の個所が大幅に減り、4月の水量は源流部で特に少なくなりCOD（河川の汚染度）がいつもの20倍の値に。その後、水道が自然に回復されたのか、6月には平常の数値にもどった。5月29日の大雨では、源流部の木道まで水位が上昇し、井頭橋近くの下水吐から下水が流入して、湧水の白子川が汚染されていた。大雨があったものの5月中は水が少なく、6月の降雨で一旦水量はもどったが、7月になると毎年の如く徐々に水量を減らしている。井頭堰で源流部の水位を保つことが急務になっている。

生きものたちは？

- 動物 地震の影響か4月、源流部ではアメリカザリガニ、コミズムシ、アメンボ、スジエビだけ、井頭橋付近でギンブナ2匹、火の橋付近でホトケドジョウの成魚と幼魚を1匹ずつ確認しただけだった。しかし、5・6月になると井頭橋付近でギンブナの群れ60匹くらいを確認。源流部でもフナの稚魚を確認。トウキョウダルマガエルの鳴き声も聞かれ、急に水際が賑やかになった感じがした。
(この他、ツバメ、ナミアゲハ、アオイトトンボ、サホコカゲロウ、シマドジョウ、モエビなど)
- 植物 冬場悩まされ続けたアオコに代り、春先からは、ウキヤガラ、カンガレイ、ミクリ、ガマなど背丈のある水草がオオフサモなどを抑えて、源流部に勢力を拡大させている。

活動記録

- 4/27 源流通信第32号発行
- 5/16 午前：大南小4年生「白子川博士になろう」キックオフ授業
夕方：大南小4年生担任の先生方の白子川初「体験」
- 5/22 定例活動
- 6/5 全国・川の一斉調査に参加
- 6/11, 12 練馬区環境月間行事に出展（関町地区センター）
- 6/19 第11回定期総会（10周年記念誌『みんなの白子川』配布）
- 6/24 放射線簡易測定器にて水面、ドロ、公園等の放射線量測定
- 6/25 大南小保護者対象、道徳授業地区公開講座『白子川と命』講演（菅沢博）
- 6/26 定例活動（TOTO水環境基金のTOTOグループ社員、家族が川活動に参加）
- 7/3 まちづくりセンター「大泉村」のまち歩きに協力（縄文遺跡説明と白子川ガイド）
- 7/4 大南小4年生の白子川体験（フィールドワーク）〈放射線の不安から川に入らず〉
- 7/18 仮称「練馬にアユを呼ぶプロジェクト」（第1回）白子2丁目落差工調査 by 自転車
- 7/24 定例活動



絶滅危惧種

ミズキンバイ 源流に生息しています！

池田 正

7月～8月、白子川源流にはヒメガマやカンガレイなど単子葉植物が生い茂っています。その中であって、這いながら一生懸命に黄色の花を咲かせている姿があります。まことにいじらしく魅力的なこの花が、アカバナ科のミズキンバイです。

名の由来はいくつかありますが2つあげますと、1つはキンバイソウに似ているから、あと1つは、花を上から見ると金色(黄色)のウメの花に似ているからです。いずれも花卉の1枚1枚が凹んでいて真正面から見るとウメの花にそっくり。水金梅(ミズキンバイ)と昔の人が名をつけたのも、もともとです。

このミズキンバイは水生多年草で、泥の中に根茎が伸び、そこから茎がいくつも立ちます。葉は互生です。

草の特徴は、水の中から出る葉は丸みをおびていますが、上に茎を伸ばしたときにつく葉は先がとがっているのです。葉柄のつけ根には2ミリの黒いつぶがあって目立ちます。花卉は4枚または5枚。白子川源流でも1本の茎で枚数の違った花を見ることができますので、クローパーの4つ葉を探すように観察するとおもしろいですね。

ミズキンバイも他の植物と同じように地球上から消えていきます。水のごれや水濁れで生きていくことができないためです。

白子川源流にもう1か所、細細と生存している所がありますが、河川工事などで今後どうなることやら。源流のミズキンバイをみんなで大切にしていきたいと思います。



絵と写真：池田正

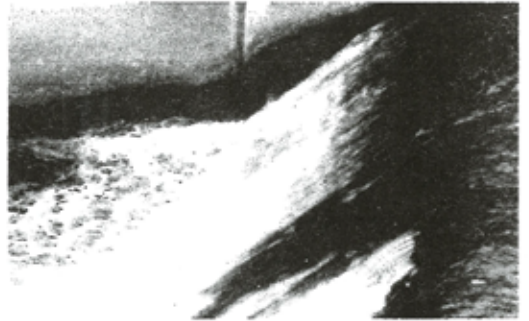
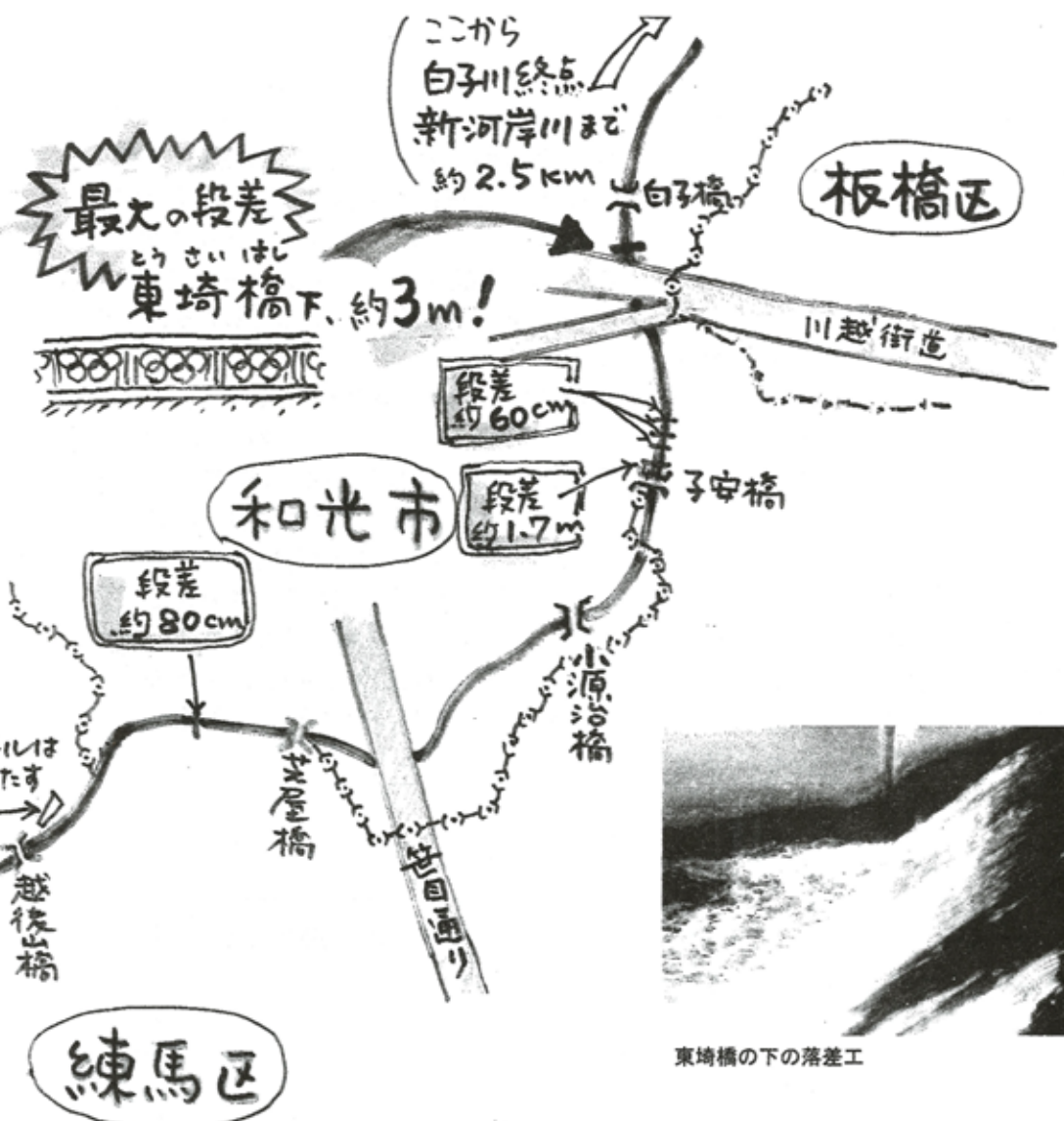
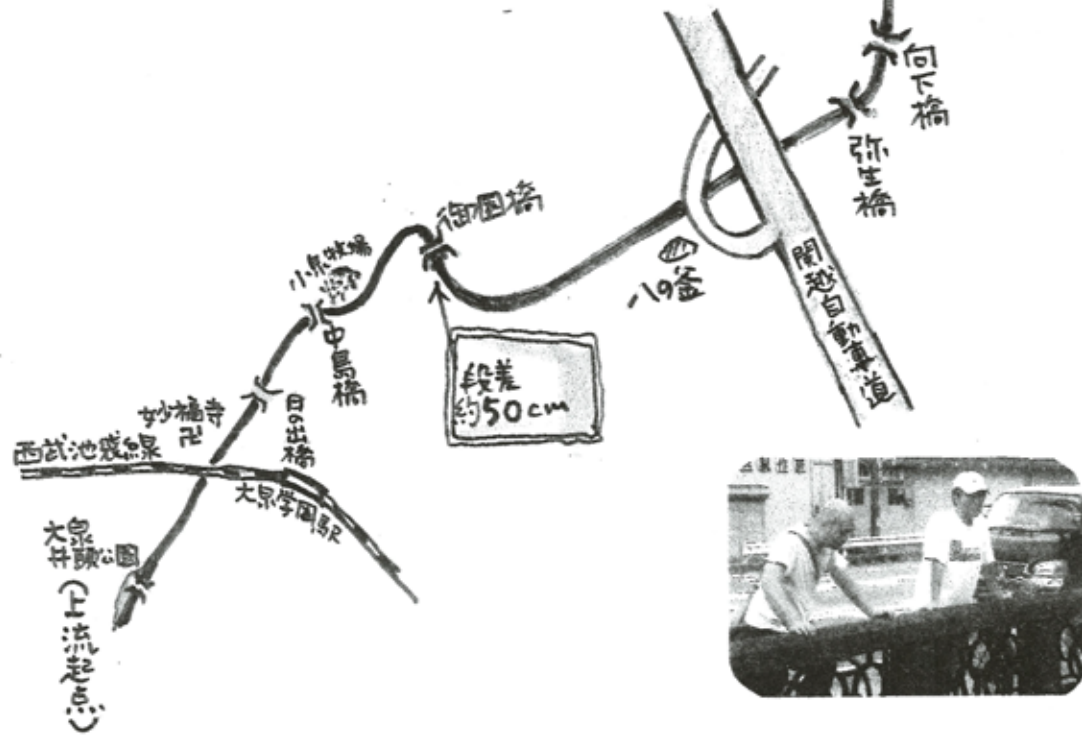


“ホタル舞う大泉”の夢より、もっと近い夢はアユだと私は思っている。なぜか？ 水質抜群の白子川があるからです。では、なぜ水質が良いのにアユは白子川に遡上しないか？ 理由は明快です——アユがのぼれない段差があるからです。で、その段差はどこにあるのか？——和光市白子2丁目の川越街道下です。ここに約3mもの落差工(らくさこう)があります。私は大胆にも、この落差工に魚道を設置すればアユは源流に！ 練馬に！ やってくると信じて疑わないです。どうすれば魚道が作れるかは大きなハードルですが……。

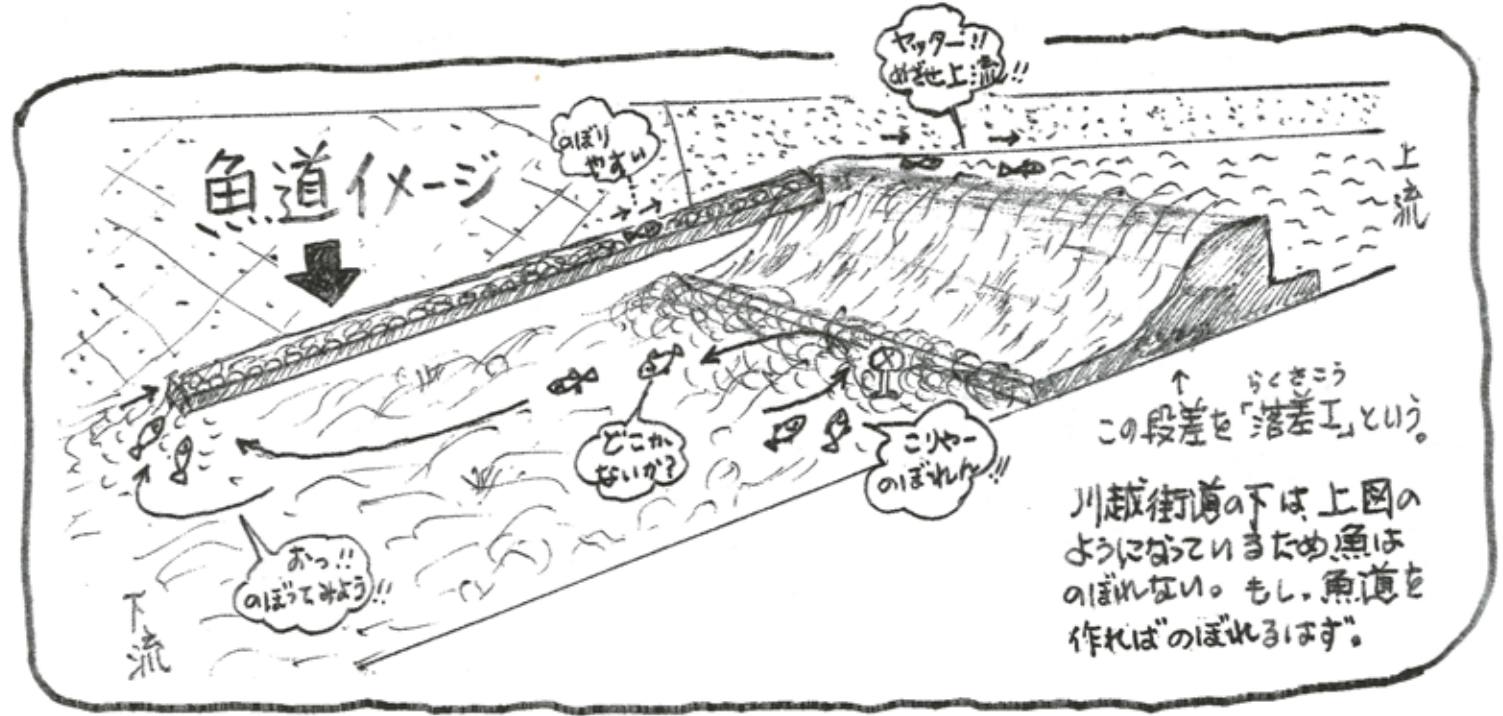
アユを白子川上流に呼びたい！

さて、その落差工をカメラと目視で検証してきました。ついでに、白子2丁目の落差工～上流～源流までの全段差もチェックしました。(7月18日6人で自転車ツアー)

10年かかるかもしれないプロジェクトの第1弾として、手始めのデータベースをつくりました。みなさん！〈アユがやってくる白子川上流〉なかなかでしょ！ ユメを実現させましょう！
(菅沢博)



東埼橋の下の落差工



新会員紹介 ☆ 豊 哲男

今回、遅ればせながら新会員になりました豊哲男(ゆたかてつお)です。両親が奄美大島出身のため、「豊」という名前のような名字なのです。南大泉一丁目在住58年です。白子川、弁天池では小さい頃に遊んだ覚えがあります。ただ、残念なことにその記憶がだんだん薄らいでいっている今日この頃です。水辺の会には前々から関心がありましたが、なかなかお近づきになる機会がなく(源流まつりと「地区祭」がいつもバッティングして)今回ようやく総会に出席させていただき会員となることができました。しかも、この間、南大泉一丁目町

会の役員の一員として私も大変お世話になった井口正治前会長と一緒に入会できたのは、とても光栄と思っております。あこがれの木製プレートもゲットでき、我が家のフェンスに誇らしげに掲げられています。

白子川は、南大泉と東大泉の間を流れている川です。ですから、この会の活動も、南大泉地域の会員及び地区の方々と東大泉の会員及び地区の方々が、強く団結して地元の誇りである白子川の源流を守り発展させ、更に両地区の交流も発展させていけたら素晴らしいと思います。私も、その活動に少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

📌 体育館でキックオフ授業 (5/16)

4年生が年間35時間もの総合学習『白子川博士になろう』に取り組むキッカケづくりだけに、会員の“にわか先生”たちは毎年緊張して講義します。今年も、「東谷先生」がこの地域の昔と今の地形図を使って環境変化を説明、「横山先生」が白子川の生き物を豊富な映像で紹介、「菅沢先生」が自宅のプラナリアを映写して小さな命の大切さを説明しました。

大泉南小学校4年

白子川博士になろう

📌 町に出て体験授業 (7/4)



生きものの話をする池田会員



大泉南小

↓
縄文遺跡の話

(説明: 鷺田)

↓
白子川源流

(説明: 池田)

↓
みどり広場 井戸の水音

第11回定期総会報告

6月19日 東大泉地域集会所

2001年6月に水辺の会が設立されて、あっという間の10年が過ぎ、11年目を迎えました。この間、多くの人がかかわり、地域に深く浸透した「白子川への想い」——これこそ、当会設立のコンセプトでした。

時にはだらしなく、時にはエリを正し、活動してきました。おりしも、「10年記念誌」を発行して、読めば読むほど「この会のゆるさ」「この会のしつっこさ」が会員一人ひとりに表現されています。

川はいつでも流れているし、今後もずっと流れつづける。しかし、人は年をとり、世代は入れ代わります——その大きな流れと小さなキザミをどのようにミックスしていくかが、自然を相手に活動する団体の永遠の課題だろうと思っています。

*

いつものように定期総会をくぐりましたが、これは大切なハードルです。6月19日も大過なく終えましたが、考えれば会員の二十数名が一堂に顔を合わせることは年1回だけ。まるで“村まつり”のようです。何があるわけでもない、いつもの“村まつり”と同じように、その“定期行事”をよくぞ、まあ、11年間もやってきたナ！ と思うのです。

たぶん、その原動力は白子川だと思います。この川が、私たちを駆りたてているのだと思います。この川によって、6000年も10000年も前から人々が白子川によって生きてきたDNAのようなものが現代の大泉の住民にも息づいているんだと思う。そんな悠久の流れの中に私たちは活動している——と思うと、なんだかニンマリ笑ってしまうのです。これは、私の個人的な想いかもしれませんが、そう解釈してもそんなにまちがっていないと思います。

*

会は次の10年に向けてもう歩み出しました。「白子川を気にかけている人」は確実に増えています。もはや、のっぴきならないほど当会は白子川にのめり込んでいて、それがとても気持ちいい！ (菅沢 博)

10年記念誌「みんなの白子川」できました。

白子川の近くに住む人、むかし川であそんだ人、汚れた川を憂えた人、通りがかって川を知った人……白子川源流・水辺の会が設立して10年の間に集った会員が、現在の心境をゆるやかに綴っています。

*在庫あります。ご希望の方は菅沢まで。¥500



セリ

白子川源流や火の橋下などに群生している。高さは 30cm 程度で茎は泥の中や表面を横に這い、葉を伸ばす。葉は二回羽状複葉、小葉は菱形で鋸歯は深い。花期は 7~8 月。やや高く茎を伸ばし、その先端に傘状の花をつける。個々の花は小さく、花弁も見えないほどである。北半球一帯とオーストラリアに広く分布する。

春の七草の一つである。独特の香りを持ち、春先の若い茎は食べられる。有毒なドクゼリとの区別に配慮が必要である。ドクゼリは地下茎は太くタケノコ状のふしがあり、横に這わず、セリ独特の芳香もないので区別できる。



『白子川源流まつり』

10月23日開催!

大泉井頭公園にて

12:00-15:30



ことしも来てねー

■今後のスケジュール

9/25	定例活動
10/22	定例活動
10/23	白子川源流まつり
11/27	定例活動
12/25	定例活動

☆定例活動は午後 1:30~

川が子どもを呼んでいる!

子どもはきっと“小さな自然”にふれたいがっています。白子川源流なら 23 区内では珍しい生き物がたくさんいて、しかも安全。毎月第四日曜日午後 1:30~4:00 に、私たちは川の活動をしていますので、どうぞ、親子で遊びにきてください。

編集後記

▼西武線近くの河川敷。川の上に枝をグリーンとせり出して、青空に咲くピンクの花。風にそよぐレースの葉。ねむの木だ。さえぎるものがない自由空間を謳歌している風。ふと根元を見ると、鉢はバカッと割れ、太い根がアスファルトに突き刺さっていた。なんとも、たおやかな木のド根性!(さ)

▼アユの遡上を願って和光市の東埼橋までチャリで行った。橋から落差工を見ていたら「今年はアユが来ているかしら」と犬の散歩中の奥さん。グッと現実味が増す。その一方、源流では線量を測り、福島の子に秩父の 1 週間を過ごしてもらった。放射能におびえる只今の現実がある。(け)

※この会報は年 3 回発行しています

発行 白子川源流・水辺の会
編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子
題字 宮本沙海
発行部数 1000 部
代表 菅沢 博 03-3923-8430
練馬区南大泉 1-10-5
suga-lohns@icom.home.ne.jp

http://www.geocities.jp/sirako_river/